

人権課題別事業実施報告概要

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

熊本県

学校名

宇城市立小川小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・児童会（人権集会）

目標・人権教育のねらい

- ・授業や諸活動での成果を人権集会で発表することにより、いじめや差別のない、人権を尊重する学校を自分たちで作上げようとする意欲・態度を養う。
- ・これまでに人権尊重に関して学習したことを発表したり聞いたりすることで、改めて自分たちの課題と向き合い、解決のための手立てを考え人権感覚を高める。

実施した内容

- ・児童会企画委員会から、本校児童の課題について発表し、「自分の思いを伝えていくこと」をみんなで目指すという目標を共有した。
- ・人権学習を通して考えたことを代表児童（2人）が発表し、発表を聞いた児童が感想の手紙を書き、代表児童へ返した。

工夫した点

- （指導上の工夫）
- ・他学年の学習内容や思いを知り、考える集会とし、自分たちの学校の課題やその解決に向けた取組を共有することで、学校全体でいじめや差別のない学校づくりについて考えていく機会とした。
- （地域や関係機関との連携）
- ・学校だよりで学習内容や児童の感想、人権集会の様子を知らせ、地域や保護者に啓発した。

他教科との
関連

- ・学級活動（人権学習）では、各学年の計画に沿った系統的な学習により、感性を磨き、いじめや差別を解決する態度を養い、他の人権問題に目を向け差別をなくす行動力を高めるねらいを意識した授業を行った。

事業成果

- ・技能的側面：アンケート結果から、自分の思っていることや感じていることを伝えると考える児童の割合が、5月から12月にかけて15.8ポイント増えた。

人権課題別事業実施報告概要

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

熊本県

学校名

宇城市立小川小学校

人権課題

同和問題（部落差別）

対象学年・
取り扱った教科等

小学4年・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・日常生活における自分の言動と教材文を重ねて振り返りながら、身の回りにある「決めつけ」による偏見や差別がどんなに人を傷つけていくのかを理解し、人や物事について事実や根拠を基に自分の目で正しく判断していくことが、偏見や差別をせず人と豊かにつながっていくことを理解する。
- ・一人一人の思いを出し合い、それをみんなで受け止め、考え合うことで、互いの絆を深めていこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・題材文を読み、「わたし」に対する転校先の子供たちの「決めつけ」による言動のおかしさに気付き、「わたし」の抱えていた悔しい思いや悲しみについて考えるとともに、自分の周りやクラスでも決めつけや思い込みがないか振り返った。
- ・友達の発言や作文から、自分たちの周りにも決めつけや思い込みがあったことに気付き、思いを表現した友達へ考えを伝えたり、今までの自分を振り返ったりした。
- ・自分たちの学級の問題点を出し合い、それらの解決・改善に向けて自分がどうしていくのかを考え、これからの生き方や仲間づくりについて考えた。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・実際にクラスの中で不安な思いを抱えている児童の発言を紹介し、共有することで、自分の思いを伝える経験と他者の思いに寄り添う経験をさせ、決めつけや思い込みの解消につなげた。
- (地域や関係機関との連携)
- ・特別支援学級と連携して授業を行い、様々な児童の抱えている不安を共有し、改善できた。また、学級通信等で保護者に学習内容を知らせるとともに連絡帳等で情報交換を行い、継続して児童を支援していく体制を作った。

他教科との
関連

- ・道徳において、主として人との関わりに関することについて学習した。また、総合的な学習の時間では、自分の町の人々の思いや自然などの素晴らしさと結びつけて指導した。

事業成果

- ・知識的側面：アンケート結果の「いじめや差別は絶対にいけないもの」という項目で、肯定率が11月時点で100%となり、認識の深まりが見られた。
- ・クラスの問題も自分たちで解決しようと話し合う姿が顕著に見られるようになった。

人権課題別事業実施報告概要

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

熊本県

学校名

宇城市立小川小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・国の隔離政策に伴う人権侵害について正しく知ることにより、ハンセン病についての正しい認識を養う。
- ・差別に対する怒りを持ち、自分の思いを伝えようとする意欲をもつことができる。

実施した内容

- ・「あなたたちに伝えたいこと」を読み、ハンセン病に対する偏見や差別が、地域の中でのくらしを奪い、家族を苦しめていることをとらえた。（1時間）
- ・「壁をこえて」を視聴し、菊池恵楓園での生活の様子（監禁室、納骨堂、入所者の方のお話など）を知り、差別をなくしていく生き方をされている方に学んだ。（1時間）
- ・自分たちの思いを伝え合った。（1時間）

工夫した点

- （指導上の工夫）
- ・「ハンセン病」についての知識に関する個人差が大きかったので、より分かりやすく正しい理解を促すために、DVDを活用した。
 - ・5年時「水俣病に関する学習」や6年時「平和学習」を通して語り部の方々の思いをどのようにとらえ、その後の学習や自分の生き方にどのようにいかしてきたのかを振り返った。
- （地域や関係機関との連携）
- ・学級通信等で保護者にも学習内容を知らせ、啓発した。

他教科との
関連

- ・社会科にて、基本的人権の尊重について学習した。また、総合的な学習の時間では、正しい情報、正しい知識の大切さと結びつけて指導した。

事業成果

- ・知識的側面：アンケート結果から、いじめや差別はどんな理由があってもいけない、友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切だという意識の変化が見られた児童がいた。

人権課題別事業実施報告概要

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

熊本県

学校名

宇城市立小川小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年、6年・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットにおける書き込みが、ときに相手を傷つけてしまうことを理解し、相手の立場になって発信することの大切さに気付く。(5年)
- ・インターネットにおける誹謗中傷や個人情報の流出に対し、許さない気持ちを持ち、その危険性を理解し、責任を持った情報発信をしていくことへの意識を高める。(6年)

実施した内容

- ・登場人物が軽はずみで送ったメールが学級に広まり友達が傷ついてしまった場面から、友達の落胆した様子や送った側の後悔の気持ちに着目し、友達とよりよい関係を築くために大切なことや情報発信の在り方について交流し、考えを深めた。(5年 1時間)
- ・インターネット上で誹謗中傷を受けた場面や個人情報の流出につながる場面を例に、問題点や自分だったらどう対処するかについて交流し、考えを深めた。(6年 1時間)

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・事前にアンケートをとり、アンケート結果(実態)と教材を結びつけて考えさせ、自分たちのこととして捉えさせた。
- (地域や関係機関との連携)
- ・研究授業として行い、本校の教職員全体で協議する場を設けた(5年)。また、授業参観として行い、保護者や地域の方々に啓発する機会とした。さらに、学級通信等で、学習内容を知らせて授業参観に來られなかった保護者にも啓発した(6年)。

他教科との
関連

- ・社会科にて、基本的人権の尊重について学習した。また、総合的な学習の時間では、正しい情報、正しい知識の大切さと結びつけて指導した。

事業成果

- ・知識的側面：アンケート結果から自他の存在が大切であるという認識の深まりが見られ、肯定率が9月には100%となった。
- ・メディアに関するルール作りをする家庭が増えた。

人権課題別事業実施報告概要

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	熊本県	学校名	宇城市立小川小学校
人権課題	その他（水俣病をめぐる人権）	対象学年・取り扱った教科等	小学5年・総合的な学習の時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病について正しく理解するとともに、偏見や差別を許さない心情や態度を育てる。 ・もとの環境を取り戻すために多くの人たちが協力し合ったことを知り、環境問題に対する関心を高め、自分たちの生活の中で環境保護のためにできることはないか考え、実践意欲へとつなげる。 		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の水俣の様子を写真で見て感想を交流し、過去に水俣病に対する偏見や差別による問題が起きたことを理解した。 ・水俣病の症状や発生原因について正しく理解し、過去に起きた水俣市民に対する偏見や差別について考えた。 ・もとのきれいな環境や人々の明るい雰囲気を取り戻すために、水俣市民が取り組んできたことについて調べた。 ・調べ学習や現地学習で学んだことをまとめ、自分たちの生活を見直し、正しい情報を発信した。 		
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣市民に対する偏見や差別に焦点化するのではなく、偏見や差別を持った人々の気持ちを考えたり、もとの環境を取り戻すために水俣市民が取り組んできたことを調べたりなど、水俣病から得た教訓について焦点化した。 <p>(地域や関係機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣病についての事前学習後、実際に現地の様子を見たり、関連施設を訪れたりして学びを深めた。 ・水俣病を通して学んだことについて、地域や保護者に向けて発表する場を設定した。 		
他教科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習「この子とともに」で、偏見や差別について考えるとともに、学級の中での友達との関わり方について見つめ直した。 ・社会科での今後の環境学習と関連付けて指導した。 		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識的側面：アンケート結果の「いじめや差別はどんな理由があってもいけない」という項目で5月から12月にかけて肯定率が6.6ポイント上昇し、認識の深まりが見られた。 ・正しい知識を身に付けなければならないこと、人々のつながりが大切であることを実感する児童の振り返りがあった。 		